

「危機的状況にある方言」

鹿本高校 4班 広瀬奏 住吉晃太郎 竹田脩人 吉本成嬉

1. 要旨

今の日本では、標準語を話す人と方言を話す人がいる。しかし少子高齢化が進むに連れて若者が減り方言をはなす人が減っている傾向があるのではないかと考えた。そのため現在日本の方言の現状と文献調査で調べた後に、アンケート調査をもとに実際の方言の使用頻度を知り10代20代の使用率が、低くなった。このことから、10代20代の使用率を上げることが必要なのだと考えた。

2. 研究背景

まず人々は言葉話し、この言葉があることでたくさんの人とコミュニケーションをとったり、いろんな情報を受け渡したりしています。その言葉の中に「方言」があることに気づき「方言」の事について少し調べてみると「方言」が減少傾向にあることがわかりました。私達は方言はなくてはならないものだと考え、なぜそうになっているのか、それを改善するためにはどうすればいいのか、と思いこの研究を始めました。

3. 研究方法

①文献調査

- (1) 消滅の危機にある言語・方言とは
- (2) 現在、日常的に方言を話しているか、標準語で話しているか

②アンケート調査（鹿本高校の1年4組25/31）

- (1) 年齢によって方言の使用頻度は変わるか
- (2) どのような影響を感じたか

4. 研究内容

① (1), (2)より

○「言葉の起源」を考えるためにはそもそも人間はいつから「言葉」を使うようになったのか。どれだけ人間を研究しても、その起源に迫ることは難しいと東京大学教授は言う。言葉とは、心の中に概念としてイメージできる要素をさまざまに組み合わせて、新しい概念を構成し、自分や他人に伝達することのできる道具。人間以外に言葉を使う動物はいない。人間だけが言葉を持っている。また言葉の中でも方言というものがある

○今方言は使われているのか

「あなたは現在、日常的に方言を話していますか？標準語を話していますか？」

「生まれ育った地域の方言を話している」(44.0%) 「生まれ育った地域以外の方言を話している」(7.4%) これらの答えを合わせると方言を話している人は全体の51.4%という結果となりました。

現在、日常的に方言を話しているか、標準語を話しているか



cancamより

◆現在、日常的に方言を話しているか、標準語で話しているか

- 生まれ育った地域の方言を話している (44.0%)
- 生まれ育った地域以外の方言を話している (7.4%)
- 方言の地域で生まれ育ち現在は標準語を話している (14.4%)
- 標準語の地域で生まれ育ち現在も標準語を話している (33.4%)
- その他 (0.7%)

引用文献・参考文献

- https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/index.html
- <https://cancam.jp/archives/628203>

「方言」を話している人、「標準語」を話している人の割合は、ほぼ半々となっていることが分かった。また、多くの人が自分の生まれた地域の言葉話し続ける人が多いようです。このようなことから、自分の地元の方言が好き人が多いのかもしれませんが、しかし、中には方言の地域で生まれ育ち現在は標準語を話しているという人もいますので、確かな証拠はわからなくなっていると思う。日本の言語・方言の中には、消滅の危機にあるものがあります。それには、ユネスコが平成21年2月に発表した8言語、そして、「東日本大震災からの復興の基本方針」で指摘された東日本大震災の被災地の方言が該当します。文化庁では、消滅の危機にある言語・方言の実態や保存・継承の取組状況に関する調査研究をはじめ保存・継承に資する様々な取組を行っています。世界で約2,500に上る言語が消滅の危機にあるとして掲載されています。日本国内では、8言語が消滅の危機にあるとされており、掲載されている8言語とそれぞれの危機の度合いは次のとおりです

【極めて深刻】アイヌ語

【重大な危機】八重山語、与那国語

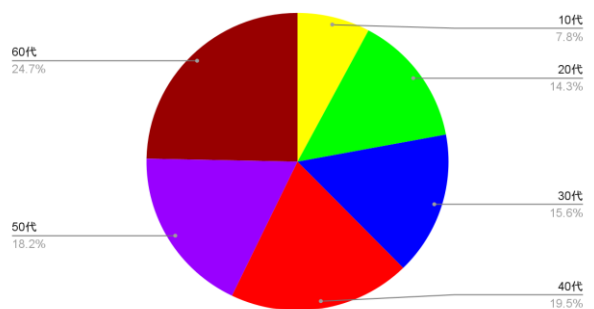
【危険】八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語

5. 結果・考察

② (1), (2)より

アンケート結果（年齢別）

10代～60代の方言使用頻度



<考察>

アンケートの結果から10代が一番割合が低く60代が一番割合が高かった。年齢が小さくなっていくほど割合が低くなっていることがわかった。そのことから、年齢が高くなるほど、方言を使用する頻度が高いことがわかった。そのためやはり方言は減少傾向にあることがわかった。

6 今後の展望

まず今回のアンケートは対象の人数が少なかつたため正確な結果が出せなかつたように考える。

今後の展望については、どうしたら10代や20代の方言の使用頻度が増えていくのかを考え、現在減少傾向にあり危機的状況にある方言の状況を脱却できるような案を考えたい。